

## 4月12日（火）

おはようございます。

清風では、福の神のコース、つまり自らを高めることによって多くの人のお役に立とうとする道を説いています。それは勉強だけではなくて心の状態をしっかりと高めていくことが大切だということです。

さて、ピーター・ドラッカーという経済学者がいますけれども、一時期大評判になった「もしドラ」という日本の小説があります。正式には『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』というのですが、高校野球部の女子マネージャーが、ドラッカーの『マネジメント』を読み、人をマネジメントする仕方を学んで、野球部の運営を覚えていくという物語です。このドラッカーが絵画を集める趣味を持っていて、その中で特に気に入っているのは、白隠禅師の絵だそうです。この白隠禅師の絵画展がちょうど今日から5月22日まで京都国立博物館で開催され、ドラッカーの気に入っていた絵が展示されるので、ぜひ見に行こうと思っています。

白隠禅師はたくさんの達磨さんの絵を描いていて、彼が描く絵は歳を取るに従って迫力が出てくるのだそうです。ある人が白隠にこの絵を描くのになどどれくらいかかったのですかと、質問をした。白隠は70歳を過ぎていて、目もよく見えなくなっていたらしいのですが、彼は70年と一時（いつとき）かかったと答えた。ドラッカーはこの70年と一時という言葉にとっても心打たれます。なぜかという、17世紀を代表する画家レンブラントが絵を描くのに70年かかったというのと、白隠禅師が70年かかったというのでは意味が違うと感じたからです。

レンブラントが70年かかったというときは、おそらくその絵を描く技術を獲得するための70年であり、それに対して、白隠がかかった70年と一時というのは、一時で描いたけれども、その絵を描く境地に至るのに70年かかったということであるとドラッカーは感じたのです。ドラッカーは、これが白隠の絵の本質であり、日本文化の本質であると言いました。レンブラントに比べれば、白隠の絵はマンガのような絵であり、素人の絵です。しかしドラッカーは、その絵にすごい魅力を感じ、迫力に心打たれて、白隠の絵をたくさん集めたのです。その絵が今日から京都国立博物館で展示されますので、ぜひ見に行こうと思っています。諸君も機会があればぜひ見に行ってもらいたいと思います。

ドラッカーが感じたのは日本のころだと私は思います。自分のころの状態を高めていくことで、多くの人のお役に立つというのは清風の福の神のコースであり、自利利他を行うということです。そこで、自分を高めるといえるのは、技術的なこと、学力を高めるといえることでもありますが、それも含

めて自分の総合力を高めるということが自利利他の大切なところではあります。つまり勉強だけで多くの人のお役に立てるのかということ、ところがしっかりしていないと人のお役に立てません。

アインシュタインが、「宗教なき科学は不完全である」と言いました。科学を発展させていく上で宗教がなくてはならないということですが、ここでの宗教とは、人類に貢献しようということのことだと私は思っています。それがなければ、科学は不完全であると言ったのです。諸君は勉強をしなくてはなりません。勉強はできたほうがいいに決まっています。諸君を死ぬまでホローしてくれるのは勉強であろうからです。しかし勉強だけではなくて、総合的な人間として自分を高めていかななくてはなりません。それこそが日本のところなのです。日本人であろうとなかろうと、この国で育つ人はそういう先人の伝統を受け継いでいく必要があると僕は思うのです。自分のところをしっかりと育てていくこと、それは単に心持ちだけではなくて学力も含めた総合力ということになります。それを高めて多くの人のお役に立とうというのが、清風の福の神のコースです。ぜひその境地で努力してもらいたいと思います。白隠禅師は、一枚の絵を描くのは一時だけれども、70年もの間自分のところが向上することに関心を持ち続けたのです。僕もそうでなくてはいけないと思います。諸君らもいろいろなことがあるでしょうが、自分のところをどうやって高めていくか、自分のところをどういうふうにして広大なものにしていくか、日常の中でよく考えて、そういう視点を忘れずに頑張ってもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長